

電子チップで 車いす道案内

JR静岡駅前地下

ユビキタスネットワーク技術の活用例について
語る坂村教授—静岡市内



でもコンピュータやネットワークを使えるユビキタスネットワーク技術を利用し、静岡市葵区の地下街などで車いすの人に道案内をする市自律移動支援プロジェクト「静岡おもいやりナビ実証実験」の第一回推進協議会が二十日、市内で開かれた。

おもいやり ナビ 12月に実証実験

協議会スパーバードバイザーの坂村健東大大学院教授は「親切な人が車いす利用者に寄り添う代わりに、電子コンシエルジュ（案内人）を置く。事故などを避ける回り道も教える」と実証実験のイメージを述べた。

プロジェクトは市と国土交通省が連携し、十一月の大道芸ワールドカップでデモを行い、十二月に実証実験に移る。通路などに電子チップを埋め込み、通行する人はコミュニケーションゲータ（携帯端末）で情報を得る。対象地域はJR静岡駅前地下道と御幸通り、呉服町通り。

同様の実験は既に神戸市や東京都などで行われ、十八年度は静岡市を含む全国八カ所で展開される。鹿野正人国交省政策企画官は実用化段階での技術仕様や運用ルールに反映させるためとして「静岡では他の場所とは違うことを（実験で）確認したい」と述べた。坂村教授は「迷路のような地下街でのノウハウが発信できれば、静岡でやった課は「車いす以外の障害者への移動支援や、多言語による支援などにつながる計画」と説明した。

教授は「迷路のような地